

# タマネギ早生品種を用いた4～5月収穫作型

農業技術研究センター（高収益畑作担当）

キーワード：早期収穫、タマネギ、マルチ移植栽培

## 1 技術の特徴

タマネギは加工・業務用需要が高く、主産地の北海道や佐賀県から首都圏に輸送されているが、いずれも地理的に遠く輸送コストがかかるため、実需者からは県内での生産拡大が要望されている。生産拡大を推進するためには、法人等による水田等を活用した大規模生産が必要であるが、水稻生産との作業競合回避や安定生産技術の開発など解決すべき課題が多い。

そこで、水稻や他品目との労力競合を回避できる新作型として、タマネギ早生品種を用いて、8月中旬～9月上旬に播種し、10月下旬～11月上旬に黒マルチを敷設し定植することで、4月下旬～5月中旬に収穫できる作型を開発した。

## 2 技術内容

### (1) 栽培方法

8月中旬～9月上旬にタマネギ早生品種（スパートなど）を448穴セルトレイに播種し、10月下旬～11月上旬に畑地（黒ボク土）や水田（灰色低地土）に、畝幅100cm、通路70cm、株間12cm、4条植えて、黒マルチを敷設した畝に定植することで、4月下旬～5月中旬に収穫が可能となる。なお、無マルチで栽培すると低収量となり、収穫時期も遅くなるため、黒マルチの敷設は必須である（図1）。

### (2) 主穀作経営への導入時の労働時間の変化

主穀作経営（水稻15ha、コムギ15ha）に新作型を導入した場合、コムギ15haのうち2haをタマネギに転換することで、総労働時間は16%増加するが、水稻や麦の農繁期を回避でき、収益性が12%増加する体系として、主穀作経営の安定化に寄与できる（図2、表1）。

## 3 具体的データ

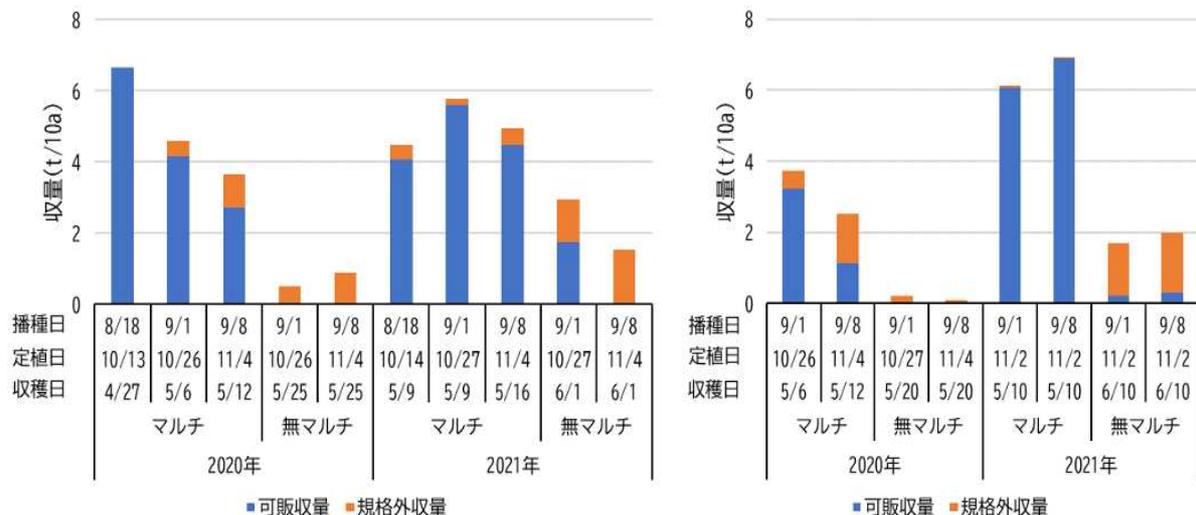


図1 タマネギの収量（左：黒ボク土、右：灰色低地土）

作目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年計
水稻 15ha	主な作業													
	労働時間	0	0	0	0	210	686	135	87	332	26	0	0	1475
コムギ 15ha	主な作業													
	労働時間	75	9	24	0	0	300	0	0	0	0	276	0	684
<b>労働時間計</b>		<b>75</b>	<b>9</b>	<b>24</b>	<b>0</b>	<b>210</b>	<b>986</b>	<b>135</b>	<b>87</b>	<b>332</b>	<b>26</b>	<b>276</b>	<b>0</b>	<b>2159</b>



作目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年計
水稻 15ha	主な作業													
	労働時間	0	0	0	0	210	686	135	87	332	26	0	0	1475
コムギ 13ha	主な作業													
	労働時間	65	8	21	0	0	260	0	0	0	0	239	0	593
タマネギ 2ha	主な作業													
	労働時間	14	26	18	18	20	0	10	88	108	70	60	6	438
<b>労働時間計</b>		<b>79</b>	<b>34</b>	<b>39</b>	<b>18</b>	<b>230</b>	<b>946</b>	<b>145</b>	<b>175</b>	<b>440</b>	<b>96</b>	<b>299</b>	<b>6</b>	<b>2505</b>

図2 主穀作経営にタマネギを導入した場合の月別労働時間の例

表1 主穀作経営にタマネギを導入した場合の収益（単位：千円）

作目	直接生産販売費	減価償却費	費用合計	粗収入	差し引き所得
水稻 15ha	5,196	3,478	8,674	12,750	4,076
コムギ 15ha	4,078	1,867	5,944	9,485	3,540
<b>合計</b>	<b>9,273</b>	<b>5,345</b>	<b>14,618</b>	<b>22,235</b>	<b>7,617</b>



作目	直接生産販売費	減価償却費	費用合計	粗収入	差し引き所得
水稻 15ha	5,196	3,478	8,674	12,750	4,076
コムギ 13ha	3,534	1,618	5,152	8,220	3,068
タマネギ 2ha	3,917	1,097	5,014	6,405	1,392
<b>合計</b>	<b>12,646</b>	<b>6,193</b>	<b>18,839</b>	<b>27,375</b>	<b>8,536</b>

#### 4 適用地域

県内全域

#### 5 普及指導上の留意点

- (1) 本技術は、当センター内で得られた成果をまとめたものであるため、対象地域やほ場条件を踏まえ、効果を確認する必要がある。
- (2) マルチ移植栽培であるため、通常であれば灌水の必要はないが、定植前後に少雨や無降雨で土壌が乾燥している（地表面から3cm下までの土に水気がなく、5cm下の土を手で握ると崩れる）場合は、苗の活着や初期生育促進のため灌水を行う。

#### 6 試験課題名（試験期間）、担当

実需者の要望に応える加工・業務用タマネギの新省力栽培の構築（2019～2023年）、高収益畑作担当